

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770402592		
法人名	有限会社 矢吹薬局		
事業所名	グループホーム羽音 ユニット羽		
所在地	福島県いわき市常磐水野谷町千代鶴176-1		
自己評価作成日	平成26年11月18日	評価結果市町村受理日	平成27年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成27年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・医療連携されていて医療面の不安がない。 ・家族様にも行事に参加してもらっている。 ・毎日、入浴できる環境を作っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の意向を大切にしながら、全職員で「笑顔」を絶やさない支援に努めている。 2. 利用者の個別通信や事業内容等(運営推進会議議事録や外部評価結果・アンケートなど)が家族に報告開示されており、運営の透明性が図られ、家族との信頼関係が築かれている。 3. 医療連携が密に図られ、事業所の「重度化・看取り指針」を家族に説明しながら意向に沿ったターミナルケアに取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「出会い・触れ合い・関わり合い」という理念をスタッフルームに掲げ、勉強会のテーマにもして共有する。	事業所理念を掲示し、会議等の中で確認しながら、利用者の安全を守り、人々との出会い、ふれあい、関わり合いを大切に、自分らしく生活できるよう、笑顔をもって支援するよう全職員で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者本人としての交流は難しいが、事業所として町内会に属し、地域の行事に参加している。	地域の自治会に加入し、地区の清掃への参加や各種ボランティアの受け入れ、事業所の花火大会等に地域の子ども、自治会の方を招待するなどしながら交流を深めるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の議事録を回覧板に入れてもらい、認知症の方々の日常生活を伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	何でも素直に報告・相談して意見をもらうようにしている。他の家族様にも議事録を送付している。	運営推進会議は定期的開催されている。会議では事業所の現状や利用者の生活状況等を報告しながら意見を頂き、それを運営に反映させるよう努めている。また、出された意見などの取り組み状況や進捗状況を委員に報告し、家族等にも報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部からの相談事を地域包括支援センターに取り次いだり、情報をもらったりしている。代表者本人が市の介護運営委員会のメンバーに属している。	法人代表者が市の介護運営委員会に属していることから行政との関係が密に図られている。また、管理者は必要に応じて、利用者の相談や情報交換等を行いながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「ダメ」と言わない介護をスローガンとし、勉強会のテーマにもしてスタッフ間で共有している。現場でも、何が拘束にあたるか話し合っている。家族と話し合い、拘束せずに安全を保つケアを心掛ける。	身体拘束・虐待防止、法令遵守などの研修会を実施し、身体拘束をしないケアを徹底し、利用者の意向を尊重したケアに取り組んでいる。また、職員間で日常的に拘束をしないケアの確認と話し合える職場風土が醸成されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会のテーマにもしてスタッフ間で共有している。入浴時の全身のチェックや、日々のケアの中で互いに注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会のテーマにもして、スタッフ間で話し合っている。プライバシーの保護も権利擁護に関わるなど具体的に話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の書類説明の際に十分行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	廊下に意見箱を設置。面会時に近況報告し、家族様の要望も聞かせてもらう。	家族が運営推進会議に参加し、毎月、各利用者の生活状況を「たより」で報告し、面会や行事などの際に、意見を頂くよう努め運営に反映している。また、外部評価結果やアンケート結果を家族等に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで自由に発言や提案ができる。	管理者は職員の意見や提言を、月例合同ミーティングや日常業務の中で常に把握するように努め、法人代表者と連携を密にしながら運営に反映するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期昇給や、毎月の求人募集などで環境を整える努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会でスキルアップに努めている。新人スタッフは時間をかけ、マンツーマンで指導を行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会の知らせを掲示したり、研修会に参加できるようシフト上でも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にADL状況や生活状況の聞き取りをして現場に伝える。御本人とも、よく話し合うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階から家族様の話をしっかり聞き取る。入居時にも書類説明しながら詳しく話してもらう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や見学、入居時や面会の際にもよく話を聞き、月1回のミーティングでスタッフ間で共有できるようにする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に言葉の暴力や拘束が起こらないよう気をつけている。日々の生活の細かい観察や本人の希望の聞き取りに努めている。一緒に軽作業したり、共に過ごす時間を多くしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	直接TELにて報告・相談したり、面会時の会話を大切にしている。イベントへの家族参加、ホーム便りなどで関係を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由。お部屋で一緒にゆっくり過ごせるよう配慮している。(イスを出したり、お茶を出したり)	家族等の面会は多いが、外出が困難な利用者が多くなり外出が少なくなっている。家族の協力で墓参りや温泉、外食等の実施で、なじみの関係が継続できるよう支援している。また、友人や知人の訪問時にはゆっくりくつろいで頂けるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、午前中にレクリエーションを行い、季節の行事やゲーム大会などで皆で楽しめる時間を作っている。利用者同士の相性なども考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	共に看取りを行い、葬儀にも参列している。退所後も運営推進会議に参加してもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のデータを、いつでも見られる状況にしてある。ミーティングでも日常の言動について報告や話し合いを行っている。	利用者との日常のかかわり合いの中で、言動や表情、仕草等から本人の意向を把握するよう努め、会議の中で情報を共有しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のデータを個人ファイルに入れ、いつでも確認できる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回のバイタルチェックで健康面を把握し、スタッフ間の申し送りで日々の変化について共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングでスタッフからの報告や意見を聞き、プランに生かしている。日々、スタッフ間でも話し合い、ケアの工夫をしている。	介護計画の見直しは3ヶ月毎に実施し、利用者、家族の希望と利用者の心身状況に即した介護計画を作成している。また、定期的にモニタリングを実施し、状態変化があった際は現状に即した介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過と申し送りの活用でスタッフ間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の要望も受け、現状に合わせて工夫している。重度化のため、個々のニーズを引き出すのは難しくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアを受け入れている。行事の際は社会福祉協議会と連絡を取って、介助ボランティアにも来てもらった。地域包括支援センターと共に、地域のネットワーク作りをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2人のDr.が月2回ずつ往診。毎週、NS.が来て医療連携している。指示を受けた事については、TELやはのん通信で家族様に報告している。受診先は家族様が選択される。	内科は2人の医師により往診ができる。その他の専門医療機関を受診する場合は職員、家族が状況により連携し、通院付き添いを行い、その結果の報告も適切に行われている。緊急時にもスムーズに受診できる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、NS.が来て医療連携している。細かい事まで報告・相談している。緊急時の連絡先も渡されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診Dr.から紹介状をもらいスムーズな入院に繋げている。入院中は度々、面会に行き早めに退院できるよう情報をもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	Dr.と家族様と管理者で話し合う機会を作っている。インフォームド・コンセントで書類を説明しながら十分に伝えている。	入居時に重度化や終末期の事業所の方針を説明し、状況変化時に医師、家族、職員が話し合い方針を共有し支援している。ターミナルケアも出来る体制があり実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置。勉強会で実践的訓練を行う。応急手当普及員の養成。Dr.の緊急連絡先も、もらっている。外部研修に参加。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は勉強会でも実践的訓練を行う。現在、水や食料の備蓄のために工事中。	火災を想定し、消防署の指導の下で、全職員が夜間を想定した避難訓練をしたり、AEDや消防設備の操作訓練を実施している。非常時に地域消防団員にも通報できるシステムがある。	2階造りの建物で車椅子を利用している方が多い事業所で、避難訓練は1回実施しているだけである。各種の災害を想定した避難訓練を出来るだけ多く実施出来るよう検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室で入室の際はノックしている。「ダメ」と言わないケアを目指し、言葉遣いに気を付けている。	全職員が人格を尊重し個人情報や羞恥心に配慮しながら笑顔で接している。また、言葉遣いに配慮するよう職員間で注意しあい「ダメ」といわない」ケアを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化の為、本人からの要望は少ない。本人の思いを引き出すよう声かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	見守りを重視し、本人のペースに合わせて、追い立てないよう注意している。声かけを多くし本人の思いを聞き取っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に気を使い、衣類の乱れなども、その都度直す。定期的に出張理容サービスにより散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	レベルに合わせて軽作業をお願いする。献立の説明をしたり、会話しながら一緒に食事をする。	季節の食材を使用しながら栄養バランスに考慮した献立を行っており、食事関連の皮むき、テーブル拭きなど可能な作業は職員と一緒に実施している。利用者の嗜好や意向に沿ったメニューに乏しいと思われる。	利用者の嗜好に応じた献立やおやつなどを検討し、食べる楽しさ、満足感に配慮した食事を多く提供できるように検討して欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	Dr.の指示で栄養補助食品を利用する。水分摂取量と時間を決めている。レベルに合わせて食形態や食器類も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯の洗浄、口すすぎ、口腔内の拭き取りをレベルに合わせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で各々のパターンを読み取って誘導している。立位可能な方は全員、トイレに行く。排泄時間・量・形状なども詳しく記録している。	入居者の各居室にトイレや洗面台があり、排泄チェックし、羞恥心に配慮しながら、できるだけトイレで排泄出来るよう自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	Dr.に報告して、下剤の調整を行う。レクリエーションに体操を行ったり、個別のリハビリもしている。トイレ時に腹部マッサージをする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴できる環境を作っている。体調に合わせて入浴回数を決めたり、中止したりしている。一対一になるチャンスなので、ゆっくり会話するよう努めている。	午後3時から8時までの時間帯で週6日入浴を楽しめるよう支援し、季節のゆず湯などを楽しんだり、入浴を拒否される方にも対応を工夫した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室の温湿度の管理や照明に気を配っている。体調に合わせて臥床タイムも作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	支援経過の中に内服薬の表をファイルして、いつでも確認できる。誤薬のないよう三重にチェックしている。粉薬は個人専用容器を使い、ヨーグルトを混ぜて与薬。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションで体操やゲームを行ったり、軽作業を一緒に行ったりする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レベル低下の為、外出は困難になってきた。家族様に協力してもらっている。中庭に散歩に出て、日光浴する。	重度化している方が多く、日常的な散歩、買い物、ドライブなどが難しくなっている。中庭で日光浴をしたり、家族等と一緒に花見を行うなどの行事を実施している。希望により家族と一緒に外出し買い物、外食などを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭への関心も低下し、外出の機会もほとんどない。小口については事務所で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から家族様宛に年賀状を出してもらう。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃に努め、清潔な環境作りに努めている。温湿度の管理も細めに行う。皆が集まるホールの壁に、イベントの写真や季節の飾り物を掲示している。	快適な空調に配慮され、利用者の作品や行事写真が掲示されており、観葉植物も置かれ明るくゆったりした共用空間である。ソファで寛いだり、読書を楽しむこともでき、生活感や季節感が感じられ、居心地良く生活できるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々がホールでの自分の座る場所を持っている。スタッフが中庭に同行して1人になる時間も作っている。マイペースな方は、自由に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	入居時に自宅で使っていた物や家具など持参してもらう。家族様から送られた写真やカードを自室に掲示している。家族様が泊まれるよう簡易ベッドと寝具の準備をしている。	プライバシーに配慮されており、ゆったり落ちついた居室になっている。本人、家族と相談し馴染みのダンス、椅子、人形、家族写真、作品などが置かれ、その人らしく生活出来るよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや引き戸・手すりなど安全に配慮されている。自室がわかるよう本人の写真を入口に掲示している。浴室・トイレが判るよう暖簾などをかけている。		